

衛的取り組みではない。
あるヨガ教室が、このコロナ危機の中、オンラインでの教室を開いたところ、子育てで家を離れられない母親や、遠方の顧客など、むしろ新たな顧客層が増えた事例がある。

従って、この危機において経営者に求められる第二の力は、その社員の叡智を活かして、いかなるパンデミックにも耐えられる新たな事業モデルへと変革を進めることである。なぜなら、このコロナ危機は、一過性のものではないからである。これから第二波、第三波が到来し、いずれ、新たなパンデミックも到来する。従って、経営者は、このコロナ危機が収まったら元の事業に戻れるという希望的観測を持たず、パンデミックに強い新たな事業形態への模索を進めなければならない。

**このコロナ危機は
事業変革の絶好機**

そして、経営者にこの思いがあれば、逆境においても、必ず、社員から勇氣と叡智が湧き上がってくる。

すなわち、「危機は、事業変革の絶好機」なのであり、このコロナ禍を、単なる厄災と見るか、「起こること、すべて深い意味がある」との人生観によって、災いを福へと転じ

る覚悟があるか、それが経営者に問われるのである。そして、この覚悟を定めるとき、経営者には、自然に第三の力が与えられる。

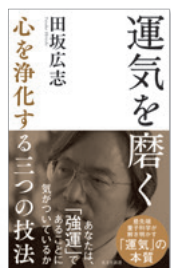


多摩大学大学院名誉教授
田坂塾・塾長
田坂広志

たさか・ひろし 1981年、東京大学大学院修了。工学博士。87年、米国パテル記念研究所客員研究員。90年、日本総合研究所の設立に参画。2000年、多摩大学大学院教授に就任。現在、名誉教授。世界経済フォーラム（ダボス会議）Global Agenda Council元メンバー。元内閣官房参与

2019年7月9日 中村ノブオ 撮影

それは「運気を引き寄せる力」である。いかなる危機においても、「これは社員とともに成長する好機だ」「これは事業を変革する好機だ」と前向きに受け止める経営者は、自ずと強い運気を引き寄せる。そして、運気とは、究極、経営者の「人間力」が引き寄せるもの。「社員の人生を大切にしたい」「この事業を通じて世の中に貢献したい」と願う経営者の周りには、自然に、良き人々が集まり、良き出来事が増え、良き運気がやってくる。我々は、その不思議な世界、有り難い世界に生きている。



昨秋発売以来、13万部を超えて読まれ続けている著書。最先端量子科学の観点から「運気」の秘密を解き明かし、多くの読者から「人生観と生き方が変わった」との声を得た、著者渾身の書。

危機を好機に変える 経営者「三つの力」

このコロナ危機の中、多くの中小企業経営者が逆境に直面している。しかし、すべての危機は、成長と変革の好機に転じていくことができる。そのために経営者に求められるのは三つの力。では、それは、いかなる力か。

心の中で祈ると、その瞬間、ある言葉が降りてきた。そこで、目を開け、腹を据え、二人にこう語った。「おめでとう！大変なことが起こったな！こんな修羅場、滅多に体験できないぞ！状況は極めて厳しいが、まだ勝負は終わっていない。最後まで手を尽くしてみよう。結果は自分が責任を取る。だが、君たちは、この修羅場の体験で、学べることを、とことん学んで欲しい。その学びをしてくれるならば、すべて吹っ飛んでも、自分に悔いはない！」その瞬間、この二人の部下の表情が変わった。「この危機を糧として学ぼう、成長しよう」との覚悟が伝わってきた。そして、その二人の部下の奮闘の結果、ギリギリの状況を逆転し、このプロジェクトを軌道に乗せることができたのである。では、なぜ、筆者は、このとき、この言葉を語ったのか。部下の人生の時間を大切にできなかったからである。いかなる逆境においても、暗い気持ち、後ろ向きな気持ちで歩ませたくなかった。「この逆境を糧として成長できる」との前向きな気持ちで、かけがえの無い人生の時間を歩ませたかった。

いま、世界中を深刻な危機と混乱に陥れている新型コロナ感染症。この危機によって社会経済活動が甚だしく低下するなか、多くの中小企業が経営困難に直面し、悪戦苦闘を余儀なくされている。

しかし、こうした危機のときにこそ、経営者の力が、その企業の未来を決め、ときに、その危機を好機に転じていく。では、危機を好機に変えるために、経営者に求められる力とは何か。「三つの力」を述べておこう。

**危機のときこそ経営者と
社員は成長できる**

第一は、危機の中で不安を感じ、暗い心境になっている社員から、勇氣と叡智を引き出す力である。しかし、それは決して「頑張ろう」と声をかけることではない。最も大切なことは、経営者自身が「危機のときこそ、我々は大きく成長できる」と深く信じ、そのことを、思いと祈りを込め、社員に語りかけることである。筆者のささやかな体験を語るなら

ば、ある企業で部長を務めていたとき、担当する新事業開発プロジェクトに、突然、深刻な問題が降りかかった。部下が二人、顔面蒼白になって部長室に飛び込んできたが、報告を

受けた瞬間に「このプロジェクトは吹っ飛ぶ」と直観した。解決の妙案など心に浮かばなかったが、目を閉じ、「この二人の部下に何を語るべきか、教えたまえ」と

心の中で祈ると、その瞬間、ある言葉が降りてきた。そこで、目を開け、腹を据え、二人にこう語った。「おめでとう！大変なことが起こったな！こんな修羅場、滅多に体験できないぞ！状況は極めて厳しいが、まだ勝負は終わっていない。最後まで手を尽くしてみよう。結果は自分が責任を取る。だが、君たちは、この修羅場の体験で、学べることを、とことん学んで欲しい。その学びをしてくれるならば、すべて吹っ飛んでも、自分に悔いはない！」